

強化子を使ったマッチング学習を取り入れて

ーコミュニケーションをスムーズに行うためにー

山根幸子^{1)*} 大本好子¹⁾ 横川正枝¹⁾ 西村典子¹⁾ 君野淳子¹⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター療育指導室保育士

Use of matching-to-sample training with reinforcements as care and education support based on augmentative and alternative communication (AAC) theory

– To facilitate communication by children (persons) with severe mental and physical disabilities –

Sachiko Yamane^{1)*}, Yoshiko Ohmoto¹⁾, Masae Yokogawa¹⁾,

Noriko Nishimura¹⁾, Junko Kimino¹⁾

1) Care and Education Support Section, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: syamane@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

T 病院では、コミュニケーション活動を促すための手段の一つとしてグループ療育を設定し、絵カードを使ったコミュニケーション学習を進めて来た。しかし、理解力に差があり、個別指導の必要性を感じた。近年、AAC (augmentative and alternative communication: 補助代替コミュニケーション) の考え方が広がりを見せている。AAC は言葉を補うようなサイン言語や図形シンボル、またテクノロジーなどを使って、コミュニケーションを成立させようとする指導の領域やその考え方のことである。よく使用される AAC 手段として、身振りサインと絵・写真等を含む図形シンボルがある。そこで、グループ療育の中に AAC の考え方を取り入れ、T 病院オリジナルの絵カードと、強化子を使用した個別の学習場面を設定し実施した。その結果、課題はあるものの、簡単なマッチングの学習の成果が見られた。鳥取臨床科学 2(1), 30-34, 2009

Abstract

We employed group therapeutic practice as a procedure to facilitate communication of children (persons) with severe mental and physical disabilities, and have promoted communication training using picture cards in group therapy; however, one-to-one teaching is still necessary because of differences in the understanding ability among the children (persons). Recently, care and education support based on augmentative and alternative communication (AAC) has been increasing. AAC involves the procedures and theory for visual communication using sign language (manual signs), diagrammatic symbols (picture and photographic cards) and other techniques to compensate for the underdeveloped verbal communication ability of children (persons). We applied the AAC theory and procedures to our one-to-one teaching as well as to our group therapeutic practice. We have tried to conduct one-to-one teaching using our original picture cards and reinforcements consisting of snacks and beverages. We observed some effects of matching-to-sample training with picture

cards on the communication activity of the children (persons) with severe mental and physical disabilities. *Tottori J. Clin. Res.* 2(1), 30-34, 2009

Key Words: 重症心身障害児(者), グループ療育, 補助代替コミュニケーション, 強化子, マッチング学習, 絵カード; children (persons) with severe mental and physical disabilities, group therapeutic practice, augmentative and alternative communication (AAC), reinforcer, matching-to-sample training, picture cards

1. はじめに

近年, AAC (augmentative and alternative communication: 補助代替コミュニケーション) の考え方が普及しつつある. AAC は言葉を補うようなサイン言語や図形シンボル, またテクノロジーなどを使って, コミュニケーションを成立させようとした指導の領域やその考え方のことである¹⁾. よく使用される AAC 手段として, 身振りサインと, 絵・写真等を含む図形シンボルがある. T 病院の重症心身障害児(者)病棟の利用者の中には, 一部知的レベルが高い人達がいる. しかし, 感情や要求を表出する手段や方法が未熟であったり, 言葉を持たないため, 自分の感情や要求を他者に上手く伝えることができ

ず, 感情のコントロールが困難になったり, 逃避しようとしたり, 自分の殻に閉じこもり, 自発行動がとれないなど様々な行動が起りやすい. 我々は, コミュニケーション活動を促すための手段の一つとして, 我々のオリジナルの絵記号を使って療育グループで学習して日常生活の中で使えるようにした. しかし理解力に差があり, 個別学習の必要性を感じた. そこでグループ学習の中に個別学習の時間を設定した. 重症心身障害児(者)にとって, 「食べる」という行為は解かり易く, 楽しみであるので²⁾, 個別学習の中で, 強化子 (おやつ) を取り入れたマッチング学習を進めた. その結果, 少しではあるが, マッチング学習の成果が見られたので報告する.

表 1 対象 3 症例の特徴

氏 名	A 氏 (54 歳)	B 氏 (36 歳)	C 氏 (51 歳)
ジェンダー	男	女	男
診 断 名	脳性麻痺	脳性麻痺	脳性麻痺・難聴
遠城寺式乳幼児分析的発達検査			
手の運動	1 : 0 ~ 1 : 2	1 : 2 ~ 1 : 4	1 : 4 ~ 1 : 6
基本的習慣	3 : 8 ~ 4 : 0	1 : 6 ~ 1 : 9	2 : 6 ~ 2 : 9
対人関係	1 : 6 ~ 1 : 9	2 : 3 ~ 2 : 6	0 : 6 ~ 0 : 7
発語	1 : 2 ~ 1 : 4	0 : 7 ~ 0 : 8	0 : 0 ~ 0 : 3
言語理解	1 : 4 ~ 1 : 6	1 : 9 ~ 2 : 0	難聴 (職員の身振り等を見て日常は過ごす)

大島の分類では, 3 例ともに「2」に分類される.

2. 研究目的

重症心身障害児(者)への強化子を取り入れたマッチング学習の効果を検討する.

3. 研究対象

研究対象は T 病院重症心身障害児(者)病棟利用者 3 名 (表 1) である. その対象 3 名は, いず